

三小タイムズ

令和2年10月21日発行 校長 辻 久恵

パラリンピアンから学ぼう

ゴールボール 金メダリスト安達 阿記子選手

ゴールボールは1976年正式種目となり、目が見えにくい選手が行う競技です。

バスケットボールと同じくらいの大きさですが、重さは1,25kgあります。ボールの中に鈴が2個入っていて、鈴の音を頼りに競技を行います。ですから観客は静かに観戦するルールがあります。

コートのはしらはバレーボールと同じくらいで、アイシェードをつけて、3人で手足を伸ばしたり、体を投げ出したりしながらゴールにボールが入るのを防ぎます。ゴールにボールが入ると1点です。

視覚障害には、全盲と弱視があります。安達選手は中心盲点という症状が中学2年生の時に右目に、20歳の時に左目にあらわれました。

情熱を傾けていたピアノができなくなり「自分には何ができるか」考え、マッサージの勉強をする学校に通い始めクラブ活動でゴールボールと出会いました。

簡単そうに見えたが、やると難しい。悔しい！チャレンジ目標を一つ一つクリアしていくと、楽しくなりもっと上手になりたいと思うようになり、日本代表の合宿にチャレンジすることにしました。

「やらないでダメより、やってダメなほうがいい」と思ったからです。

- ・2008年北京大会 世界の壁は厚く、負けて悔しかったです。
「世界一」を合言葉に頑張りました。

- ・2012年ロンドン大会 金メダル達成

- ・2016年リオ大会 5位

3大会を通して学んだことは、

「仲間を大切に！ やってもらったらやっつけてあげる！」です。

皆さんへのメッセージです。

「自分の可能性を信じて勇気をもってチャレンジしましょう！」

2020東京大会、応援よろしく！

当時のユニフォームや金メダルを見せていただきながら安達選手の貴重なお話をうかがいました。ありがとうございました。

4年生は、総合的な学習で「体の不自由な方々とともに」という学習をしているので、体育館でお話をお聞きしました。コロナの関係でガイドラインに一度に体育館に入れるのは100名程度となっており他の学年は教室でズームによる中継を見ました。

その後、活発に10個以上の質問をして、学びを深めることができました。

